

フレイルの概念・診断



佐竹 昭介¹ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター
フレイル研究部フレイル予防医学研究室長 / 老年内科栄養管理部長

KEY WORDS

健康寿命 / Phenotype model / Accumulated deficit model / J-CHS 基準 / Frailty Index

抄 録

フレイルとは、老いの過程の中で現れる脆弱な状態を表す用語であり、些細なストレスに対し、それに合わない健康状態の増悪が起こりうる潜在的な危険を孕んでいる。このような状態を形成する問題は、身体的要素のみならず、精神心理的要素、社会的要素も含み多様である。日本老年医学会はフレイルを、健康な状態と介護が必要な状態の中間段階に位置付ける立場を取っており、自立機能がある程度維持されている状態を示すとしている。フレイルは、健康状態の回復や改善がまだまだ可能な状態と捉えられるため、虚弱化に拍車をかける因子を拾い上げ、可逆的な因子を見出して早期に介入することが、健康長寿社会の構築に重要である。そのためには、フレイルの抽出が第一歩となるため、本稿では、フレイルの概念とそれに基づく診断基準やスクリーニング法のいくつかを紹介する。

I はじめに

ヒトは、他の動物にはないいくつかの特徴をもっており、その特筆すべき点として高度に発達した脳機能と二足歩行が挙げられる。それらの能力を獲得するには誕生後一定期間を要するものの、発育とともにその能力がさらに発達し、豊かな社会を築き高度な生活を営む。そして、子孫をもうけ育てるという生命の継承を行った後も、他の生物に比べ長い「老後」を過ごす。やがて、高度に発達した脳機能や二足歩行が衰え、自身の生命を他者に委ねる時を経て一生を終えていく。ヒトの人生を俯瞰すると、このような経過が概観される。

超高齢社会を迎えたわが国をはじめ、高齢社会に移行している先進諸国では、高齢者に対する医療や介護のあり方が課題となっている。これまでの医療は死を遠ざける手段として発展し、死という事象を医療の対極に位置付けてきた。しかし、高齢社会では生物として不可避な死という運命を視野に入れた医療のあり方を考えなければならなくなっている点で、従来とは異なったパラダイムが求められている。その中で、生命の時間的な長さのみならず、質を取り入れた「健康寿

¹ Shosuke Satake
〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
E-mail : satakes@ncgg.go.jp

[COI] 本件に関する報告すべきCOIなし。